



中越メモリアル回廊  
The CHUETSU Earthquake Memorial Corridor

# Corridor<sup>【コリドール】</sup> NO.8

## 【「中越メモリアル回廊」オープンから1年。多くの皆さんに感謝の想いをこめて】

平成24年10月23日、「中越メモリアル回廊」の4施設、3メモリアルパークがオープンしてから1年の歳月が経過しました。この間、多くの皆様にご協力を頂きました。多くの皆様にお越し頂きました。本当に有難うございました。私たちは、このメモリアル施設を通じて、中越地震から得た「教訓」と「知見」を支えて頂いた皆さんへの恩返しとして、また、減災社会の実現に向けて寄与できるよう務めていきます。

## 【12月10日、「山古志」「川口」では既に1m50cmを超える積雪です】

それにしても、ここ数年は「大雪」を超えた「豪雪」続きです。中越地震の発生した平成16年度の冬は、「豪雪」とは命名されませんでした。中越地震の被災地では仮設住宅の除排雪作業を自衛隊の皆さんにお願いしなければならぬほどの「雪」でしたし、17年の年末から翌18年にかけての「雪」は、「平成18年豪雪」と命名されるほどの降積雪量でした。そして、昨年は「平成23年豪雪」、今年は12月から「豪雪」模様です。当初から相当量の雪を見込んだ設計を行ってきた「川口きずな館」ですが、屋根雪の除排雪に苦慮しています。まして、一人暮らしの高齢者のお宅には、負荷が大きくなっていきます。「川口きずな館」の運営をお願いしている「くらしサポート越後川口」は、そんな雪国の中山間地の暮らしの在り様を見直し、住民による、住民のための活動を展開していこうとするNPO法人です。

## 【「やまこし復興交流館（仮称）」は山古志会館を活用して整備】

地域の皆さんとの話し合いの結果、山古志に唯一の診療所を併設している「山古志会館」のなかに、復興交流館を併設することとしました。中越地震では、全村離村を余儀なくされた「山古志」ですが、7割近くの人々が帰村の道を選び、山に生活に戻っています。山古志の地から「中越地震とはどんな地震だったのか」「何故、人々は山に帰ろうとしたのか」「人々はこれからどこへ向かおうとしているのか」、来館者の皆さんと山古志を巡り、山の生活を楽しみながら、中山間地の可能性を考える交流館を整備していきます。

## 中越メモリアル回廊情報紙 コリドール 第8号 主な内容

- 中越メモリアル回廊 イベントインフォメーション  
中越地域のイベント・各施設の1～2月のイベント情報
- 「私のご案内いたします」 川口きずな館／きずなカフェ「看板娘」 渡辺千明
- 特集「やまこし復興交流館（仮称）整備に向けて  
やまこし復興交流館準備室 研究員／学芸員 筑波匡介
- 「中越」から「東日本へ」 「釜石メモリアルパーク整備検討委員会」の開催
- この人に聞く／小千谷市から  
「NPO法人 防災サポートおぢや」理事 佐藤 和美（さとう かずみ）さん
- ご予約いただいています（12～1月）
- 「自治体防災講座」開催のお知らせ 「アオーレ長岡」「きおくみらい」で実施される研修会、受講生募集中
- トピックス 川口きずな館で結婚式を行いました？！

## ●中越メモリアル回廊 イベント情報（12～2月）中越地域のイベント

### 《長岡》

#### ●河井継之助記念館 6周年記念講演会

日時：12月22日(土)14時～15時30分

会場：長岡グランドホテル

幕末維新ミュージアム霊山歴史館学芸課長・木村幸比古さんによる講演会です。

来年のNHK大河ドラマ「八重の桜」の主人公新島八重の実像に迫ります。

問合せ先：河井継之助記念館 0258(82)8282

#### ●ういたり、しずんだり・・・液状化の実験

日時：12月29日(土)10時30分～12時、13時～15時30分

会場：長岡市立科学博物館

中越大震災や東日本大震災で被害が発生した地盤の液状化現象を実験・解説します。

問合せ先：長岡市立科学博物館 0258(32)0546

### 《小千谷》

#### ●小千谷市展秀作展

日時：平成25年1月14日まで 9時～17時

※年末年始・水曜日休館

場所：小千谷市市民学習センター「楽集館」

11月開催した市展の入賞作品を一堂に展示する楽集館企画展を開催します。

日本画、水墨画、洋画、書道、写真、工芸・彫塑の優秀作品をぜひご覧ください。

問合せ先：楽集館 0258(82)8282

#### ●東山五人杵搗餅保存会 餅つき見学会・昼食会

日時：12月23日(天皇誕生日)11時～12時30分

場所：小千谷市東山住民センター

小千谷市東山地域に伝わる餅の伝統的製法「五人搗き」の見学会と昼食会を開催します。

お誘い合わせのうえお越しください。

問合せ先：東山住民センター 0258(59)2003

### 《川口》

#### ●オール川口フェスタ

日時：平成25年1月20日(日)10時～17時

場所：アオーレ長岡(ナカドマ・フロント広場・テラスなど)

雪になんか負けない！豪雪地帯川口の食・芸能・文化・新しい取り組みなど、アオーレ長岡を舞台に発信します。

期間中は雪洞火ぼたるのライトアップ演出も行います。



## ●中越メモリアル回廊 各施設のイベント・企画展情報

### 《長岡震災アーカイブセンター きおくみらい》

#### ●「ありがとう」の写真展

日時：平成 25 年 1 月 11 日(金)～ 2 月 8 日(金)

東日本大震災の被災地、宮城県石巻市の高校生 4 人が、これまで支援してくれた方々に「ありがとう」の言葉を届けるために被災地で撮影した笑顔の写真を展示します。

#### ●企画展「被災者こころのケア」

日時：平成 25 年 2 月 15 日(金)～ 3 月 31 日(日)

中越大震災後、被災者のこころのケアは丁寧に行われてきていますが、東日本大震災被災地では、現在も確立した仕組みのないまま支援者の手によって行われている実情があります。今後の被災地に必要なケアとは、そして仕組みとはどういったものなのかを考えます。

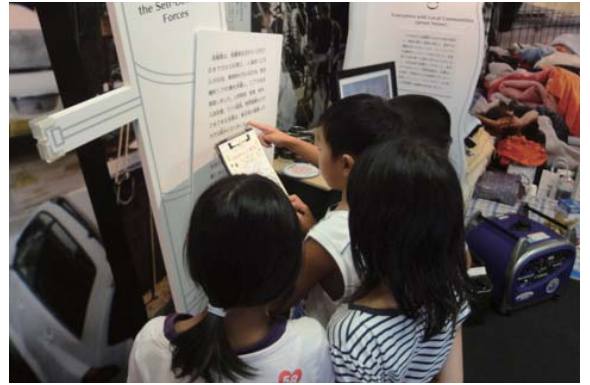
### 《おぢや震災ミュージアム そなえ館》

#### ●そなえ館クリスマス企画「防災クイズラリー」

日時：12 月 25 日(火)まで実施中館内展示を利用したクイズラリーを実施！

地震発生から 3 時間後、3 日後、3 か月後、3 年後の部屋をめぐり、防災クイズにチャレンジ！

高得点の方には素敵なクリスマスプレゼントをご用意していますので、ご家族やお友達と一緒にお越しください。



#### ●冬休み企画「防災プレイルーム4」

日時：12 月 22 日(土)～平成 25 年 1 月 6 日(日)

- ・そなえ紙芝居の新作登場
- ・新登場！防災かるた
- ・防災すごろく
- ・液状化に触ろう！エッキー
- ・筋かいの有無でゆれがちがう！？紙ぶるる
- ・そなえ川柳 募集コーナー



#### ●企画展「阪神・淡路大震災から中越へ伝えてもらったこと」

日時：平成 25 年 1 月 11 日(金)～ 1 月 31 日(火)

- ・神戸市役所職員のアドバイスとは
- ・災害ボランティア活動についてのアドバイスとは
- ・「心のケア」についての教訓とは

## 《川口きずな館》

### ●山古志版「も～まけねえぞう！」(タオルハンガー)を作ってみよう！

日時：平成 25 年 1 月 24 日(木) 10 時～ 11 時 30 分 (昼食付き～ 13 時)

阪神・淡路大震災の復興支援をきっかけに

全国から寄せられたタオルから生まれた

「まけないぞう」を山古志版にアレンジしました。

山古志地区のみなさんと一緒に作ってみませんか。

申込締切：平成 25 年 1 月 17 日(木)

(申し込みは「川口きずな館」まで)

講師：山古志「かたくりの会」

参加費：製作のみ 300 円 製作&昼食 1,300 円

持物：タオル、裁縫道具



### ●PPバンドで簡単！小物入れをつくろう

日時：平成 25 年 1 月 26 日(土) 13 時 30 分～ 15 時誰でも簡単につくることができます。

親子でもOK！冬のこたつ仕事にもなりますよ。申し込みは「川口きずな館」まで

日時：平成 25 年 1 月 26 日(土) 13 時 30 分～ 15 時

申込締切：平成 25 年 1 月 15 日(土)

(申し込みは「川口きずな館」まで)

講師：信越工業株式会社営業部のみなさん

参加費：300 円当日、材料(P Pバンドなど)の販売も行います。

会場：東川口公民館

問合せ先：TEL 0258-89-3620(川口きずな館)



### ●出張きずな茶会 in 東川口

日時：平成 25 年 1 月 31 日(木) 10 時～ 11 時 30 分

申込締切：平成 25 年 1 月 24 日(木)(申し込みは「川口きずな館」まで)

対象：東川口地区参加費：無料

会場：東川口公民館

問合せ先：TEL 0258-89-3620(川口きずな館)





## ●「私がお案内いたします」

川口きずな館／きずなカフェ「看板娘」 渡辺千明

こんにちは、初めまして。「川口きずな館」の渡辺千明です。旧川口町（現在は長岡市）出身の私は、中越大震災発生当日は長岡市に居ました。当時まだ高校生で、どうしていいかわからないなか、周囲の大人や避難先では見知らぬ人にも温かい手を差し伸べていただき、数日後にようやく自宅に帰ることができたことを今も鮮明に覚えています。

あれから8年の月日が過ぎ、自分が大人と呼ばれる年齢になった今、地元川口町の住民がどれだけ力を合わせ苦境に立ち向かっていたのか、改めて考えるようになりました。

また災害復旧後、震災をバネに立ち上がろうと様々な活動団体が生まれていたこと、現在も地域おこし活動が続け、地元で頑張っている人たちがいることを知りました。



看板娘「渡辺 千明」で～す。

この町が震災の震源地となったことで生まれた「きずな物語」を、ここ「川口きずな館」を通して多くの皆さんに知っていただけたらと考えています。「川口きずな館」では、中越地震の際に全国からいただいたご支援に「恩返し」をしようと、東日本大震災を始めとした各地の災害に対する支援グッズを販売しています。売上が各地の販売元に戻り、直接被災地の支援をする形になります。

また、支援は「グッズ」だけでなく、「きずなカフェ」のメニューの一つとして1杯100円で提供している岩手県宮古市の授産施設で作られたコーヒー、その他、サイダーやトマトジュースなども被災地支援の目的で提供しています。

中越地震の際、この地域でどのようにして「きずな」が結ばれたのかを知った後は、お飲物やお土産で被災地の支援をすることが出来るようになっていきます。

ところで、川口きずな館のイメージキャラクター「さんざんくん」をご存知ですか。川口を見守る越後三山（きずな館テラスから見て、右から八海山、中ノ岳、越後駒ヶ岳の三つの山）がモチーフになっていて、その上に架かる虹は、川口でつながる「きずな」をイメージしています。

「川口きずな館」には「さんざんくん」のスタンプもありますので、来館の記念にポストカードに押しいただき、メッセージを添えて館内のきずなポストに投函してください。ポストカードはお土産としてもご好評いただいております。四季折々の季節の風景を眺めに、おいしいコーヒーを飲みに、勉強や調べものをしに。その人その人に様々な楽しんでいただける「川口きずな館」です。

川口にお越しの際は、ぜひお立ち寄りください。



川口きずな館イメージキャラクター「さんざんくん」

## ●特集「やまこし復興交流館」（仮称）整備に向けて やまこし復興交流館準備室 研究員／学芸員 筑波匡介

今冬（平成 24 年 12 月 10 日現在で積雪 1.5 ～ 2.1m）は、一足早く冬将軍の到来があり、山古志は一面白く覆われています。「やまこし復興交流館」は、一部マスコミ報道にもありましたが、「山古志支所」に隣接する「山古志会館」を改装し、展示施設として整備を進めることとなりました。

現在、展示や運営内容について有識者を交えて地域住民のみなさんと議論を交わしています。

中でも東日本大震災の発生から 1 年と 10 ヶ月、集団移転事業、コミュニティの再生、生業の復活など、全村避難から復興に向けて「山古志住民」がどのように歩を進めてきたのかを確かめるために、多くの視察者のみなさんが訪れています。「山古志」は被災した経験と教訓を次の被災地へ届ける、まさに多くの方々から多くの支援を頂いてきた恩返しが責務であり、最大の役割なのだと認識で「やまこし復興交流館」の整備を考えています。



会館は、にぎわいの場を創出します  
（写真提供：山古志サテライト）

また一方で、この「やまこし復興交流館」は、地域の持続可能性を獲得する「地域経営の拠点」としての機能も担います。館の運営は、地域の次代を担う皆さんからなる組織が携わります。山古志のこれからを担うみなさんが、さらに将来を担う子どもたちへと山古志の心をつないでいくことも大切な取り組みだと考えています。

さらに現在、山古志地域で検討されている「芋川砂防フィールドミュージアム構想」（国土交通省湯沢砂防事務所が進めている構想）の拠点の一つとしての役割も期待されており、視察や見学者のみなさんの案内や、砂防事業と地域防災に関する情報発信も進めていきたいと考えています。

これから平成 25 年 10 月のオープンに向けて全力疾走して参りますので、よろしくお願いいたします。



地域の皆さんからも使っていただく施設を目指します



## ● 「中越」から「東日本へ」 「釜石メモリアルパーク整備検討委員会」の開催

この12月5日、岩手県釜石市で「釜石メモリアルパーク整備検討委員会」が開催されましたが、この会合に中越防災安全推進機構がアドバイザーで参加することとなりました。

今、東北の各地で被害を受けた建物や建造物を保存し、後世に記録として残そうとする動きがある一方で、震災遺構が「観光資源化」してしまうのではないかと危惧する声も大きくなっています。東日本大震災で身内を亡くされたご遺族の方々にとっては、無残な津波被害の跡を人為的に残し、ずっと見続けていくことは大変難しいことだとする意見が、あちこちからあがっているこ



妙見メモリアルパーク

とも想像に難くありません。なのに、どうして「震災遺構」なのでしょう。東北のある自治体の職員の方は、「今、私は自分の脳裏から、あの東日本大震災の記憶が薄れていくことはない」と断言できる。

もし、万が一、大津波が再度押し寄せたなら、どうあっても残された家族を高台に逃がし、一人の命も失うことはしない」「だが、これから生まれてくる私の孫が、私たちの子孫が大津波から逃げ切れるかどうか分からない。彼らには、あの恐ろしい体験も記憶もないのだから」と訴えるようにお話しされました。「震災遺構」を考えると、中越の現場では、何を残すから議論をスタートさせてはいませんでした。私たちは中越を応援して下さった多くの人々への恩返しとして、震災を経験していない多くの人々に「何を伝えるのか」、「何を語り継がなければならないのか」から議論を始めてきました。この議論の過程では、地域住民を始め多くの人と機関に関わってもらってきました。

結果、本格的な議論から5年余の歳月を要して、ようやく「災害メモリアル拠点整備基本構想」は現実のものとなったのです。「震災の記憶の風化を防止し、後世に記録を残すこと」が構想の原点であり、「震災遺構」に求められる最大の役割なのではないでしょうか。

中越大震災の現場には、「震災遺構」として、3つのメモリアルパークが整備されています。

1つは「震央メモリアルパーク（はじまりの公園）」で、震源地の上に整備しています。今一つは「木籠メモリアルパーク（記憶の公園）」で、山古志の地にあります。ここは、大規模な土砂崩落によって芋川という河川が堰き止められたことにより、水没した家屋をそのまま残し、その惨状を今に伝えています。最後の一つは「妙見メモリアルパーク（祈りの公園）」です。家族三人が乗っていた自動車が妙見地先を通過する折に大崩落に巻き込まれ、二人の尊い命を失った場所です。しかし一方で、一人の幼い命（当時2歳の男児）は、92時間を経て救出されました。人間の生存限界が72時間（3日）といわれているなか、この奇跡の救出劇は、私たちに多くの教訓と人間の英知を伝えています。



木籠メモリアルパーク



震央メモリアルパーク

## ●この人に聞く／小千谷市から

「NPO法人 防災サポートおぢや」理事 佐藤 和美(さとう かずみ)さん

「実はそろそろ引退かなと考えていたところに中越地震に見舞われました。この地震は『揺れ』じゃなくまさに『衝撃』、壁に打ち付けられた看護師もいました」。地震発生当時、小千谷総合病院の看護部長を務めていた「佐藤和美」さん、土曜日の夕方幹部職員も少ないなか、毎年行っていた避難訓練を思い出し、「訓練どおりにやろう！」と大混乱の対応にあたりました。

病院再開後、震災時の対応を「評価できる点」と「課題」に分けて検証し、その後の訓練に取り入れました。

平成19年7月、中越地震から2年9カ月後に発生した中越沖地震では数多くの患者さんを迅速に受け入れ、見直した訓練の効果を実証しています。



そなえ館で講演されている佐藤さん

結局、佐藤さんが現役を引退されたのは震災から3年後のこと。現在は「NPO法人防災サポートおぢや」の理事を務める傍らで、東日本大震災の被災地への支援活動も続けています。

「医療関係者による他の被災地への支援はD-MATなど、かなり進んだ制度や仕組みが考えられていますが、いざ、地元が被災地になった事を想定した訓練を実施している医療機関はまだ十分とは言えません。

災害対策は平常時に準備や訓練を、災害時には瞬時に動くことが重要で、命と生活を守るために日頃からの『そなえ』が大事」と、おぢや震災ミュージアム「そなえ館」の他、月に3回は全国を飛び回り「中越の教訓」を伝える活動を展開されています。

## ●ご予約いただいています（12～2月）

中越メモリアル回廊各施設では団体様の視察・見学予約を受け付けております。また、館内見学だけではなく、視察同行ガイド派遣・語り部講話手配・防災学習体験プログラム提案、防災研修会プログラム提案なども行っております。お気軽にご相談ください。12月～2月にご予約いただいておりますお客様をご紹介します。ご来館スタッフ一同こころからお待ちしております。

### 《長岡震災アーカイブセンター「きおくみらい」》

#### ■12月(20日～)

長岡市かわぐち支所地域振興課様(長岡市)  
START様(東日本大震災の復興支援に関して活動している学生主体の団体)

#### ■1月

にいがた市民大学様(新潟市)  
埼玉県坂戸市三好野区長会様(埼玉県)  
東京都豊島区議会様(東京都)

### 《おぢや震災ミュージアム「そなえ館」》

#### ■12月(20日～)

長岡市かわぐち支所地域振興課様(長岡市)  
START様(東日本大震災の復興支援に関して活動している学生主体の団体)

#### ■1月

新潟交通謝恩旅行御一行様  
「上州・信州・越後味めぐりと天下の名湯草津温泉」(新潟市他)  
吉田グループ様 社員旅行(埼玉県)  
JA茨城むつみ女性部連合様(茨城県)  
埼玉県坂戸市三好野区長会様(埼玉県)  
三重県鈴鹿市議会様

#### ■2月

第33回島しょ地区・南多摩消防団幹部視察研修様(東京都)  
新潟交通謝恩旅行御一行様  
「上州・信州・越後味めぐりと天下の名湯草津温泉」(新潟市他)  
JAにったみどり 新田女性の会様(群馬県)  
石神井消防団第4分団様(東京都)  
中央南町自連様(東京都)  
部屋区役員研修様(栃木県)



## ●「自治体防災講座」開催のお知らせ 「アオーレ長岡」「きおくみらい」で実施される研修会、受講生募集中

### 平成 24 年度「中越防災研修講座」のご案内

昨年 3 月 11 日に発生した「東日本大震災」をはじめとして、近年、各地で大規模災害が多発していることから、自治体の災害対応業務能力の向上が求められています。

新潟県中越地域においても、平成 16 年の「新潟県中越地震」や「7.13 豪雨災害」、平成 18 年の「豪雪災害」、平成 19 年の「新潟県中越沖地震」、さらには平成 23 年の「新潟・福島豪雨災害」など、連続して大規模な災害に見舞われてきましたが、これらの災害に対処したことによってさまざまな「教訓」を得ることもできました。

この教訓を全国の自治体に知っていただきたいという趣旨から、平成 22 年度を初年度として「中越防災研修講座」を開始したところですが、毎年、多くの自治体職員の皆様に参加していただいています。

併せて全国の自治体から参加者が集まることで、新たなネットワークづくりができたことも大きな成果となっています。

多くの自治体の皆様からのご要望もあり、平成 24 年度も引き続き「中越防災研修講座」を開催することといたしました。今回より発災直後の対応を中心に学ぶ「危機管理コース」と、被災後の復興を中心に学ぶ「復興・被災地視察コース」の二つのコースを設けました。

「復興・被災地視察コース」では、平成 23 年度にオープンした「中越メモリアル回廊」の各施設を活用して、復興のキーマンとなっている被災地住民の皆さんの体験談等もお聞きしながら、意見交換していきます。

この 12 月 20 日より参加募集を開始いたしました。

## ●トピックス 川口きずな館で結婚式を行いました！

### 永遠の「きずな」を誓う

～「阿部巧さん・里奈さん」結婚お披露目会の開催～

#### 「川口きずな館」

川口地域の荒谷集落には、二人でまたぐと良縁、子宝に恵まれるという言い伝えのある、二股に分かれた「夫婦杉」という大きな杉の木があります。中越大震災からの復興と地域おこし活動の中、荒谷集落での活動が縁で出会い、夫婦杉をまたいだお二人がこの 11 月 17 日、出会いのきっかけを作った荒谷集落のみなさんをはじめ、新郎新婦ゆかりの川口地域の多くの方々に囲まれながら、結婚お披露目会を「川口きずな館」で行いました。

当日、お二人の縁を結んだ荒谷集落の二荒神社に結婚の報告をしたあと、「川口きずな館」に集まった 150 名を超える参列者の前で誓いの言葉を読み上げました。

参列したみなさんから祝福のことばや、出会いのきっかけとなったエピソードの紹介などを交えながら、式のクライマックスにはお二人の結婚を記念した「きずなの短冊」を館内にお二人で阿部ご夫妻ち込んでいただき、出席された多くの皆さんからも惜しみない拍手を贈られていました。



阿部誓いの言葉



短冊を打ち込む阿部ご夫妻



きずなの短冊

事前の準備からあれこれ試行錯誤もありましたが、全て手作りで心のこもった催しを開くことができました。これからも機会があれば、地域のみなさんによるパーティや記念行事など、幅広い活用方法を提案・実践していきたいと考えています。

お二人とも、川口きずな館にとっても大変縁の深いお二人です。末永くお幸せに！

## ●編集後記

8年前の中越大震災は約30kmの狭いエリアで甚大な被害があった局地的な地震でした。

震源が約13kmと非常に浅い地震でその衝撃たるやすさまじく、

家の中にいた人は「家中をかき回された感じだった」と証言する人がたくさんいます。

しかし、「発災した時期がよかった」という人もたくさんいます。

農作業はほぼ終わり、食料の備蓄もたくさんありました。

「これが大雪の時期だったら思うと…。」

この震災は豪雪により育まれた地域性があったからこそ乗り越えられたといえますが、

先シーズンのような大雪に見舞われて、改めて「その時」を想定した

「そなえ」をしっかり考えてみたいと思う今日このごろです。

次号 コリドール 第9号は2月下旬発行の予定です、お楽しみに！

最後までお読みいただきましてありがとうございました。

---

発行元：中越メモリアル回廊推進協議会(長岡市・小千谷市・社団法人 中越防災安全推進機構)

事務局：社団法人中越防災安全推進機構 震災アーカイブス・メモリアルセンター

長岡震災アーカイブセンター「きおくみらい」

〒940-0062 新潟県長岡市大手通2-6 フェニックス大手イースト2階

TEL 0258-39-5525 FAX 0258-39-5526 E-mail [memorial@cosss.jp](mailto:memorial@cosss.jp)

URL <http://c-marugoto.jp/>

コリドール第8号 編集委員 山口・筑波・赤塚・山崎・渡辺・細貝・松本